



皮膚の硬さ 素早く計測

阪大など

大阪大学の嶋良仁講師と田中敏郎准教授、精密測定機器開発のウェイブサイバー（さいたま市）などは、皮膚の硬さを測る装置を開発した。写真。全身の皮膚が硬くなる強皮症の診断に使う。今は熟練医師が皮膚をつまんで判断している。国内外で普及を目指す。

開発したのは「ベスマーター」。直径2ミリの円筒状の金属片を患者の腕や足に一瞬押し当て、1秒で測る。結果は携帯端

末に示す。患者20人で試し、病状を正確に判定できた。国内患者は推定約2万人。阪大は関節リウマチ治療薬トシリズマブ（商品名アクテムラ）の投与で症状が改善することも新装置で確認。来年にも、慶応大などと治療効果を数十人規模で5年間調べる予定だ。